

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	外国人旅行客向けの観光ルート開拓事業
事業主体 (連絡先)	善光寺表参道イルミネーション実行委員会 (長野市観光振興課インバウンド・国際室：026-224-8316)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大に関する事業 ア特色ある観光地づくり (8)その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,363,880 円 (うち支援金：1,090,000 円)

#### 事業内容

入込客数の落ちる冬期間において、白馬地域から善光寺・松代地区へのインバウンド誘客を図るため、下記事業を実施した。

- ・モニターバスツアーの開催：12月11日、2月9日、10日、11日 計22名参加
- ・新型コロナウイルス感染症対策兼おもてなし研修会の開催：12月7日 長野市松代支所 14名参加
- ・おもてなしコンシェルジュの設置：12月11日、2月9日、10日、11日
- ・ファミトリップの実施：8月19日、12月2日



【モニターバスツアーの様子】

#### 【目標・ねらい】

- ①周遊ルートの開拓
- ②おもてなし機運の醸成と感染症対策の啓発・実践

#### 事業効果

- ① モニターツアーの催行とファミトリップの開催により、令和5年度からのツアー商品の一般商品化に向けて協議・検証を行うことができた。
- ② 町内住民や観光関連団体と研修会を開催し、インバウンド受入れ対策について具体的に議論できた。また、感染症対策を講じたバスツアーを実践し、with コロナ時代の「新たな観光様式」に対応する誘客の在り方を検討できた。

#### ※自己評価【A】

##### 【理由】

- ・白馬地域と善光寺・松代地域を繋ぐツアー商品の造成に向け、課題の抽出と旅行会社との協議を進めることができた。
- ・with コロナ時代の「新たな観光様式」に対応する誘客の在り方を検討できた。

#### 今後の取り組み

今年度のモニターで抽出した課題を踏まえ、商品を更にブラッシュアップさせ、令和5年度からの一般商品化に向けて引き続き事業者と協議を行う。

引き続き、町内でのインバウンド受入れの機運醸成と受入れ体制の確立に取り組むとともに、今年度実施した際の記録を、広報等で使用し今後の誘客に活用する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	e バイクを使った鬼無里観光まちづくり事業Ⅱ
事業主体 (連絡先)	鬼無里観光振興会 TEL026-256-3188
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (ア特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,098,040 円 (うち支援金: 807,000 円)

#### 事業内容

個人やグループなどの少人数の観光客に対する利便性を高めるためにe バイクを追加導入した。

・新たに隣接する戸隠地区にある鬼女紅葉伝説ゆかりの地を巡るモデルコースをモニターイベントやワークショップでの検討を経て設定をした。

・昨年設定したコースと合わせ、サイクルマップを製作した。



【活動の様子】

#### 【目標・ねらい】

- ①まちづくり実践者の増加
- ②交流人口の増加

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①隣接する戸隠地区もコースに入れられたことから、広域的な観光も可能となった。

②レンタサイクルの利用者が増加した。

#### ※自己評価【 B 】

##### 【理由】

関係者の協力により、サイクルマップの作成ができた。また、レンタル事業について当初の予定数には届かなかったが、昨年と比べ利用者が増加した。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

E-BIKE 利用のための最低限の環境が整備できたことから、さらに利用者を増やすようにサイクルイベントやサイクルツアーの回数を増やしたり、地区内の宿泊施設等と連携するなどグリーンシーズンにおける交流人口のさらなる増加につなげていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	臥竜公園一帯を活用したアウトドアイイベントによる防災・観光等の複合的事业
事業主体 (連絡先)	アウトドアライフスタイル推進協議会 090-1486-3460
事業区分 重点テーマ	産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり) 令和元年台風19号災害からの復興の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,999,670 円 (うち支援金: 4,799,000 円)

#### 事業内容

先般の台風19号の際は、千曲川の越水、八木沢川の内水氾濫などが発生し、須坂市も家屋や農地、道路など公共施設などにも甚大な被害を受けた。その際には信州須坂ハーフマラソンの中止など観光面の影響もあり、現在は「one for All, all for One」「オール須坂+α」をスローガンに、以下の取り組みを実施した。

##### 【本年度の取り組み】

##### 1, 【地域防災意識の向上と市民参加型イベント】

昨年度大きな反響があった、防災フェスをアウトドアフェスと統合。本年度は、10月のアウトドアイイベントで、市民運営の須坂防災ブースを展開した。

またこのイベントに向け、夏休みに須坂市内小学生対象としたSDGsアップサイクル&防災体験イベントを開催。市報などで広報いただき、10月のイベントの参加者を募集した。

##### 2, 【アウトドアな街づくり】

アウトドア視点で須坂市を紹介する須坂アウトドアマップを作成した。

##### 1, SDGs アップサイクル&防災体験

日時: 7月30・31日 (1泊2日)

場所: 須坂 小学校

来場: 50名 新型コロナウイルス感染症 拡大に伴い、ワークショップのみの参加を制限

実際の災害時にはライフライン(電気・ガス・水道・情報・道路・下水道/トイレ)などが使用できなくなる事を伝え、ライフラインが使用できなくなった時の緊急対応策を身に付ける体験型のプログラム  
キャンプ生活でのルール、食事をする際のルール、避難所としてのルールなど、様々な制限(ルール)を設定。  
課題解決に向けた話し合いや物づくりのワークショップを行った。また、中公亭と手を組み、避難時に役立つグッズやアウトドアグッズ 防災アップルボックスをアップサイクル。作ったものをアウトドアイイベントの須坂市ブースで販売した。これにより、SDGsについて体験を通して学ぶ機会を作った。

##### 【1, SDGs 防災キャンプ】





(別記様式第12号) (第3の8関係)

## 2, アウトライフスタイル防災フェス in 須坂

日時:10月22・23日 予定10時～16時

場所:臥竜公園 百々川緑地

来場:3000名

### 【コンテンツ】

#### 1、須坂ブース

・地域防災力の向上・・・須坂市民が運営する防災キャンプ体験をできるゾーン。①牛乳パックでカトラリー作り②空き缶アルコールストーブ作り③新聞紙でペーパーログ作り④ロープワーク⑤テント設営⑥AED訓練⑦火起こし体験

※AED訓練は、消防署の方不参加になり開催せず

### 【出店ブース】

協賛企業 30

### 【協賛・出店費】

協賛企業

BRON ZE 5:369,270円、協賛企業一般 12:148,500円、

飲食企業 13:214,500円 計 732,270円

## 3, 須坂アウトドアマップ

市内でも近年、新たにキャンプ場がオープンするなどアウトドアの機運が高まっているが、まとめてみられるものがない。

そこで、アウトドアを目的に来た10月のイベント来場者に、おススメスポットを募集。さらに須坂市観光協会とタイアップ、そのスポットを中心に82ヶ所掲載した。

掲載内容は、サイクリングマップから、果物狩り、食材を扱うスーパー、キャンプ場から地元で人気のたい焼き屋さん、アウトドアブランドなど幅広く取り上げた。

1、アウトドアマップ(紙)の制作

2、アウトライフスタイルのサイトへの掲載

3、アウトライフスタイルインスタグラムにてPR

## 事業効果

### 【定量効果】

#### ◆アウトドア&防災フェス

来場:3000名

交流人口約3000名日帰り旅行費用が1名約1.6万円、宿泊を伴うと

5.7万円(観光庁)。想定経済効果は、約3200万円。

協賛企業数:令和2年度26店舗⇒令和3年度36店舗⇒令和4年度32店舗

フリーマーケット:令和2年度14店舗⇒令和3年度20店舗→令和4年度21店舗

#### ◆須坂アウトドアマップ

マップ掲載は、目標30のところ82ヶ所掲載した。このマップは次年度以降も継続的に増やしていく。

### 【定性効果】

◆市民参加型のイベントで、地域が一体となり、復興の後押しになった。

◆地域防災に対して具体的なアクションの提示とコンテンツに触れる環境づくりにより、意識の底上げにつながった。

◆臥竜公園一帯をはじめとして須坂市全体の認知度を高

## 【2, アウトドアフェス】



め、3000名強の誘客を果たした。

◆イベントを通じて集まった参加者が臥竜公園の魅力を感じ、地元の方と交流してもらうことで、再訪が期待でき誘客に繋がり交流人口が増加し、さらに広域観光につながった

### 【3, アウトドアマップ】



#### 【目標・ねらい】

- ① 交流人口の増加
- ② 災害からの復興支援
- ③ 防災意識向上
- ④ 波及効果最大化

#### ※自己評価 【B】

地域防災の向上の観点では、実際の避難所でもある須坂小学校で開催し、地元小学生をはじめ、校長先生もイベントに参加していただくなど、地域への浸透が図れた。また、アウトドアイベントでも須坂防災ブースを展開し、一貫して防災意識の向上につながった。

アウトドアイベントは、約3000名の来場者があり、引き続き交流人口の増加につながった。また、イベント内で参加者から須坂市内で実際に訪れて、楽しかった場所を募集。その場所も含め作成した須坂アウトドアマップは、合計82ヶ所の掲載に至った。魅力的で集客力の高いコンテンツに成長してきたが、通年で集客できるコンテンツがまだないので、来期以降での造成が必須。

#### 今後の取り組み

- 1、通年で集客できるコンテンツの造成
- 2、復興に向け、変わらず須坂市の魅力発信、交流人口の増加を図る
- 3、他市内のイベント、団体との連携
- 4、市内の方々への認知活動の継続とより市民の方とともに作り上げるイベントに

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域密着型交通システム（シェアサイクル）の構築支援事業Ⅱ
事業主体 (連絡先)	千曲市 経済部 観光課 026-273-1111 (内線 3291)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,888,280 円 (うち支援金：2,617,000 円)

#### 事業内容

姨捨の棚田や戸倉上山田温泉など観光地域資源への交通手段の確保、しなの鉄道沿線地域の回遊性向上、持続可能な脱炭素社会づくり等についてシェアサイクルを活用し、その有効性について検証を実施。

- ・運用期間 7月1日～12月18日
- ・自転車台数 45台
- ・ポートか所 11か所 (内1か所は10月から新設)
- ・広域連携・関係者間の情報共有 定例会月1回



【プラチナ大賞受賞】

#### 【目標・ねらい】

- ①シェアサイクルの本格導入を見据えた需要把握
- ②ゼロカーボン推進に資する自転車利用の促進
- ③自転車活用による地域活性化・QOLの向上
- ④しなの鉄道沿線地域（上田市）との連携

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①シェアサイクルの利用者数が令和3年度と比較して245人増加した。また利用回数も200回程度増加し、事業目的に即した取り組みを進めることができた。
- ②市外の登録者数が340人程度あり、市内への誘客数の増加に向けた手段として、シェアサイクルの活用可能性についてデータ検証できた。
- ③日中でもシェアサイクルの自転車を走行している家族等を見かけることがあった。利用目的はそれぞれ異なるが、自転車利用による脱炭素化社会に貢献できる要素があると考えられる。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

シェアサイクルの利用促進に向けて、令和3年度・4年度で行った検証結果を踏まえ、一層最適な利用ができるような設置場所等を検討し、利用者数の増加を促していくとともに、本事業における目的に即した仕組みを構築していきたい。本サービスを広く普及・促進させるために、引き続きあらゆる手段を活用して情報発信を実施していきたい。また、イベントなども組み込みながら、自転車利用による健康増進やゼロカーボンの重要性なども啓発していきたい。

**※自己評価【 B 】**

**【理由】**

- ・シェアサイクル自転車の利用者数が約1.26倍、利用回数が約1.15倍増加。
- ・(一社)プラチナ構想ネットワーク主催の第10回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式で「優秀賞（広域資源活用賞）」を受賞

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	トキたびプロジェクト
事業主体 (連絡先)	一般社団法人信州千曲観光局
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,729,396円 (うち支援金: 3,413,000円)

### 事業内容

千曲市統一の観光コンセプト「トキたび」としてデザインし、プロモーションに活用。トキたびロゴを作成。ロゴ入り提灯を作成し、全旅館に配布。ツアーなどでも使用し、ナイトコンテンツの充実を図った。プロモーションについては、具体的プロジェクトを知ってもらう意味と、各観光スポットやワーケーションなど取り組みを、トキたびを軸に過去から未来を旅する面白く、体験したくなる形で動画を作成し、youtubeに公開。また、トキたびのポスターも作成し、千曲市観光のPRに活用。その他、トキたび温泉おみくじや手ぬぐい、ステッカーなどお土産品も作成し、来訪者のコンテンツとして活用できる素材を作成。

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① (宿泊数4月～12月を比較) R2、135,048人 →R3、148,046人 →R4、233,193人

宿泊者は増加したものの、コロナの影響もあるため、効果を図るためには今後の動向も継続して確認していく必要がある

② (来訪者満足度調査 満足度(満足した、少し満足)の合計) R3、91.3% R4、94.6%

③観光局主催イベント (フルムーンウォーク等9回)  
他主催イベント等 (おぼすて盆ダンス等2回)

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

引き続きトキたびを軸に観光プロモーションを行う。提灯などを利用したツアーや、動画をつかったPR。温泉みくじ、手ぬぐいについてプレスリリースを行い、全国にプロモーションする。提灯など利用したツアー、イベントを昨年度4度行ったが、いずれも好評で、来年度は他事業とのコラボや、販売促進、温泉街での活用など展開していく。



【提灯ウォーキングツアー】

### 【目標・ねらい】

- ①宿泊者の増
- ②来訪者満足度をあげる
- ③多岐にわたるイベント等での活用

### ※自己評価【 C 】

#### 【理由】

トキた提灯の活用や、ポスターなどプロモーションとしてフル活用できたものもあるが、動画作成に時間がかかり、効果が出るのは来年度以降になりそう。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	住民参加型の「小布施の魅力発見ツアー」造成事業
事業主体 (連絡先)	小布施文化観光協会 長野県上高井郡小布施町小布施 1497-2 (長野電鉄小布施駅舎内)
事業区分	(6) ア 産業振興、雇用拡大 (特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,119,331 円 (うち支援金 : 860,000 円)

#### 事業内容

特徴ある専門性をもつ住民講師との協働を通じて、以下3つの「小布施の魅力発見ツアー」を企画し、モニターツアーを実施。

地域の魅力を住民とともに発掘・発信し、町外からの来訪者にとって楽しめるコンテンツを造成していくことで、地域住民の郷土愛醸成に資する取組とした。

- ・古地図まち歩きツアー (9月)
- ・秘蔵の御朱印ツアー (11月)
- ・五感で味わう名建築ツアー (12月)



【名建築ツアーの様子】

#### 【目標・ねらい】

- ① 企画協力住民の創出
- ② ツアーの新規造成
- ③ ツアー参加による小布施来訪者の増加

#### 事業効果

- ① 3企画のツアーにより、住民講師や企画運営協力者を8名創出 (目標年度R1に対し130%増加)
- ② 小布施の魅力を発信するツアーを新たに3企画造成
- ③ ツアー企画参加者14名。うち初回の小布施来訪者は6名だったものの、事後アンケートにより小布施の新たな魅力を発見できたと満足度は高く、来年度以降の企画参加や再来訪の意向を高める効果があった。

#### ※自己評価【 B 】

##### 【理由】

- 地域住民の協力により、小布施の魅力要素を発掘できた
- コロナの影響等によりツアー企画参加者が目標未達成
- 参加費でツアー費用を賄う企画設計に改善することが必要

#### 今後の取り組み

ツアー造成のために収集した小布施の魅力を多くの観光客に発信していけるよう、御朱印ツアーは次年度以降も継続する。また、まち歩きや名建築ツアーの内容を基に、ガイド養成プログラムを作成し、町歩きガイドの新規獲得・育成を図る。

また、町並み修景や地元産業再興を取り組んだ世代が高齢化していることから、当時の記憶や小布施のまちづくりのナレッジを後世に残すための記録づくりに取り組むことも検討する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信濃町“Eチャリ”プロジェクト
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 信州しなの町観光協会 住所：信濃町大字柏原 2692-12 TEL：026-255-3226
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大（ア特色ある観光地づくり） (8) その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,668,134 円（うち支援金：1,635,000 円）

#### 事業内容

- ① レンタサイクルを活用した観光振興
- ② 電動クロスバイクの購入による基盤整備  
(チャイルドトレーラー・シートを含む)
- ③ デジタルスタンプラリーの実施
- ④ サイクリングマップの制作による町内観光PR



#### 【目標・ねらい】

- ① レンタサイクル利用者拡大
- ② 自転車による二次交通の補完
- ③ サイクルツーリズム促進  
町内周遊促進

#### 事業効果

- ① 夏休みシーズンでの観光客のタクシー待ちに対する苦情解消の施策として、レンタサイクルは有効だった
- ② 電動自転車は、山岳路や坂道の多い町内観光に有効で、観光客の評判が良かった
- ③ 信州の安心なお店登録事業者のPRと促進を目的にデジタルスタンプラリーを実施し、940名が参加し効果を上げたが、交付決定前に実施するため協会独自の事業とし、事前着手となったため対象外事業とした
- ④ サイクリングマップを制作し、町内観光PRに役立った

#### ※自己評価【B】

##### 【理由】

マップ作成、デジタルスタンプラリー等が好評であった  
電動クロスバイクの納品が予定通りであれば、更なる効果が上げられた  
この点だけが残念であった

#### 今後の取り組み

- ・ 電動自転車の拡充に対する要望は観光客から多く寄せられており、基盤整備として今後も拡充に努めていきたい
- ・ 今回購入した電動クロスバイクが3台は7月納品で2台は11月納品となり、当初目標より大幅に遅れた為にレンタサイクル貸出実績は、延べ130台（前年比171.1%）に終わった来年度は、今回の新規購入車による実績貢献が見込まれる
- ・ サイクリングマップを活用したPR・情報発信に今後も注力し、観光振興に役立てたい
- ・ 今年度は野尻湖周辺の観光事業者2社との連携も進められたが、黒姫駅舎での基盤整備を進めると共に、連携事業者の拡大に注力したい